

電話や情報通信機器を用いた診療時の留意点

- ① 患者さんの基本情報、保険証番号、電話番号など聞く。
- ② 電話のしゃべり方で重症肺炎かどうか検討をつける。
- ③ 接触者、家族で具合が悪い人がいるか、感染を受けやすい職種かどうか確認する。
- ④ 症状を確認する。
- ⑤ 本人の話や、家族の話、情報通信機器の動画などで、呼吸困難の有無、昨日より悪化しているか、良くなっているのか確認。しゃべり方で、状態はわかる。
- ⑥ 患者さんの手持ちの機器を使ってできるだけ状況を把握。
- ⑦ 自宅待機か、来院か、救急車を呼ぶかなどをトリアージ。
- ⑧ 重症の指標に注意する。
- ⑨ 緊急性の高い13の症状※を見落とさない。
- ⑩ 新型コロナウイルス感染症の頻度順の臨床症状

※緊急性の高い13症状

表情・外見	<input type="checkbox"/> 1. 顔色が明らかに悪い <input type="checkbox"/> 2. 唇が紫色になっている <input type="checkbox"/> 3. いつもと違う、様子がおかしい
息苦しさ等	<input type="checkbox"/> 4. 息が荒くなった（呼吸数20以上/分） <input type="checkbox"/> 5. 急に息苦しくなった <input type="checkbox"/> 6. 生活をしていて少し動くと息苦しい <input type="checkbox"/> 7. 胸に痛みがある <input type="checkbox"/> 8. 横になれない。座らないと息ができない <input type="checkbox"/> 9. 肩で息をしている <input type="checkbox"/> 10. 突然（2時間以内を目安）ゼーゼーしはじめた
意識障害など	<input type="checkbox"/> 11. ぼんやりしている（反応が弱い） <input type="checkbox"/> 12. もうろうとしている（返事がない） <input type="checkbox"/> 13. 脈がとぶ、脈のリズムが乱れる感じがする

新型コロナウイルス感染症 外来診療ガイド第2版より